

代 表 者

視 察 報 告 書

令和元年6月18日

会派代表者 殿

呉市議会議員

沖 田 範 彦

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和元年6月6日（木）～8日（土）

2. 調査項目

山形県鶴岡市 鶴岡市立加茂水族館について

---

---

---

3. 参加議員

沖田範彦議員

## 山形県鶴岡市

### ■調査項目

鶴岡市立加茂水族館（クラゲドリーム館）について

### ■調査対応者

館長 奥泉和也

ボランティアガイド

### ■調査期日

令和元年6月7日（金）9時30分～12時

### ■調査目的

呉市の観光振興との関連性の調査

### ■視察内容

鶴岡市立加茂水族館は、昭和5年に地元有志の水族館組合により山形県水族館として設立され、運営されてきたが、一度倒産、平成14年に市が取得し、鶴岡市立加茂水族館として再開されている。

昭和39年に旧館が開館し、平成9年にクラゲの展示が始まり、平成17年には展示種類数が世界一（21種）を記録、平成24年にはクラゲ展示種類数でギネス認定され、現在では約60種が飼育されている。クラゲは全世界から調達され、繁殖が行われており、数の確保がなされている。

平成26年、リニューアルオープンした年は71万人の入場者があり、現在では約50万人を維持している。入場者の8割は県外からで、鉄道等の利便性が悪いにもかかわらず、車や観光バスでの来場となっている。子供連れも多く、また、学習目的での来場者も多くなっている。

クラゲのほかに、地元近海に生息する魚類が展示されており、呉名物のオニオコゼやタコ、アナゴ等を見ることができた。また、アシカショーも人気があり、加えて、迷子になったゾウアザラシの子供を保護し、海に帰そうとしたが、戻ろうとせず、そのまま館内で飼育されており、これも人気を呼ぶもととなっている。

今後の運営方針は、クラゲにこだわることに徹底したいとのことでした。

平成26年6月にリニューアルオープンするに当たっては、総予算33.7億円を予定し、財源は合併特例債を7割充て、残りの費用については市債を公募して調達した。平成25年度に3億円、平成26年度に6億円を発行したところ、いずれも抽選になるほど多くの人に参加したため、抽選を行い、1,018人の人が選ばれたそうです。

市の一般財源を充てることなく事業を行っており、運営状況も健全経営で、これまでに13億円の資金を貯めており、毎年、1億円以上の黒字を計上している。

クラゲ学習会やクラゲ水槽貸し出しの企画を行ったり、クラゲを使った羊羹や饅頭等のお菓子を作ったり、レストランではクラゲを素材にした料理等を提供しており、楽しさを倍増させている。

#### ■呉市での展開の可能性

先に視察した名古屋市の世界のメダカ館や大和郡山市の郡山金魚資料館のように身近な魚類を展示することによって、大和ミュージアムの来場者の増員につながり、回遊性が生まれてくるのが容易に想像できる。

子供たちの学習にも寄与することができることにもなり、呉市のイメージアップにもつながることが期待できる。